

スペイン語を取り入れた漫才ワークショップ

——オンラインと対面学修の比較——

橋本和美（天理大学）

はじめに

本稿の目的は、大学における「スペイン語を取り入れた漫才ワークショップ」に焦点をあて、オンラインと対面授業の学修効果の相違について検証することである。

漫才とは「ボケという滑稽なことを言う人とお客さんの視点に立ちストーリーを展開するツッコミの会話で笑いを生み出す話芸」（鈴木・島岡 2022: 103）と定義される。この漫才の「笑い」が学びを活性化させるしかけとして「教育」にかけあわせられ、「笑育（わらいく）」が誕生したのは2007年のことであった。「笑育」の中心となるのは「プロのお笑い芸人から漫才のしくみを教わり、学修者が二人一組で漫才づくりに挑戦できる漫才ワークショップ」である。同ワークショップは大阪の小中学校への導入を皮切りに、2014年以降全国の教育機関へと広がりを見せている（松竹芸能事業開発室・井藤 2018: 158-143）。

橋本（2023）では大学での先行事例を概観するとともに、オンラインでのスペイン語の授業における実践結果を省察し、漫才づくりが語学の授業を活性化させる可能性を示唆した。本稿では調査対象に対面授業を加える。参加者の授業後アンケートをKH Coderで計量テキスト分析することによってオンライン授業と対面授業での共通する学修効果、および異なる点を抽出したい。

1. 先行事例

笑育は主に小・中・高等学校で展開されているが、大学でも若干の事例からその有効性を確認することができる（橋本 2023）。就職を控えた学修者20名¹⁾を対象に漫才づくりを実践した井藤（2017）では、「漫才を通じて他者とより良くかかわるためには、自己を深く見つめることが求められ、その先により他者理解への道が開かれる」ことが明らかにされている。また留学生と日本人学生を実践対象とした関口・ドリュー（2020）では人をからかうという非日常的な表現に触れることによって新しいコミュニケーションスタイルを獲得し、日本人学生との友人関係構築に良い影響を及ぼしたことが示された²⁾。立部・フランポネ・藤田（2022）³⁾ および鈴木・島岡（2022）⁴⁾でも日本人学生と留学生による「漫才づくり」が実践され、「日本人学生が海外の人からの意見を肯定的に受け取る成果が見られた」、「学修者が達成感を得た」、「留学生が日本文化へ興味関心を高めた」、「取り組み初期は戸惑いがあったものの、活動の過程において新たな気づきを得られた」、「漫才が親しみ、広がりのあるものになり、メッセージ発信手段の一つとして捉えられるようになった」、「学生自らが新しい作品として漫才を創り出し、クラスで共有したことは受講生にとって大きな意味があった」、「肯定的な反応（笑い

が、心理的、認知的な足場かけ（Scaffolding）として機能し、豊かな学びにつながった」などの報告があった。

グローバル化、IT化により急速に変化する現代社会において、若者たちには詰め込み型教育で得られる知識のみならず、「コミュニケーション力」、「問題発見力」、「創造力」、「協働能力（協働する能力）」が求められている。教育学の見地から笑育を体系化した井藤（2017: 164-166）によると、漫才づくりはこれらの諸能力を事後的、結果的に養うことができる極めて汎用性の高い学びであると示唆される。以下に先行事例より「漫才づくりによって習得が期待される能力」と「その理由」の主なものを一覧する（青砥 2015: 49-54 および井藤 2017: 164-166）：

表1 漫才づくりによって習得が期待される能力（代表例）

能力	漫才づくりが有効である理由
人間関係形成力	大学生は一般に低コンテクスト社会（異質性・他者性の高い集団）での「笑い」に消極的であるが、漫才づくりは他者とより良い関係性を構築するきっかけとなるから。
言語能力	大学生は改まった場で意図的に笑いを活用する能力が未熟な傾向にあるが、漫才を発表する場では人々の共通性・異質性・状況を瞬時に判断することが求められる。このような体験により、スピーチや話し合いをより良く実践できるようになるから。
複合力・総合力	漫才づくりを体験することによって、自己認識（思考力、発想力、イメージ力）および他者理解（相手との協働、観客への配慮現代社会で求められる諸能力）を直接的・間接的・事後的・結果的に体得することができるから。
レジリエンス	漫才づくりでは、好ましくない出来事を「笑い」のネタに読み替えることができる。このような思考のシフトを習慣化することによって、ネガティブ事象を人生の糧とし、より柔軟に力強く生きることができるようになるから。
笑い観の継承・発展	漫才の中には、落語のように人間の普遍的な愚かさ、弱点を笑いながらも引き受けようとする日本的感性のエッセンスが含まれるものがある。これらに触れ親しむことは、日本人らしい笑い観の継承・発展につながる可能性が高いから。

2. 実践

本章では、筆者が実践した漫才ワークショップについて省察する。表2に示すとおり、ゲスト講師の参加形態は、実践1～3ではオンライン、実践4のみ対面であった。一方学生の参加形態は、実践1では全員がオンライン、実践2ではオンラインと対面の混合、実践3および4は全員が対面であった。本考察ではコロナ禍以前の授業、つまり講師と学修者全員が対面である形態を「対面授業」と位置付けたい。つまり実践1～3をオンライン、実践4を対面授業と分類する。

また、授業目標はオンライン、対面ともに「漫才づくりを通してスペイン語に触れる」、「他者と協力して課題に取り組むと設定した⁵⁾。

表2 実践内容 (2021年度)

実践	日程	大学・学年	授業形態	授業名	受講人数 (名)	ゲスト講師
1	6/18	A・2～4	オンライン	スペイン語コミュニケーション1	12 (オンライン)	フランボネ島岡・藤田ゆみ・たねやん (オンライン)
2	6/21	B・3	オンライン	表現文化演習	12 (オンライン2/対面10)	フランボネ島岡・藤田ゆみ (オンライン)
3	12/6	B・2	オンライン	スペイン語演習	19 (対面)	フランボネ島岡・藤田ゆみ (オンライン)
4	12/15	B・1	対面	スペイン語B	8 (対面)	藤田ゆみ・たねやん (対面)

- 【授業の流れ】
- 1) ゲスト講師の自己紹介
 - 2) 漫才とは
 - 3) コンビ名の決め方、飛び出し (資料1)
 - 4) ペア作業1
 - 5) 発表1
 - 6) ネタの作り方 (資料2)
 - 7) ペア作業2
 - 8) 発表2 (資料3)
 - 9) 相互評価 (資料4)
 - 10) ゲスト講師による総評、質問タイム、アンケート

オンライン授業 (実践1～3)

調査時期は2021年度、対象者は私立A大学「スペイン語コミュニケーション」の受講生12名(2～4年次生, 学修歴1年3か月)、および私立B大学「表現文化演習」の12名(3年次生, 学修歴1年6か月)と「スペイン語演習」の19名(2年次生, 学修歴1年3ヶ月)であった。それぞれの科目名や学年は異なるが、学修歴(1年以上)と習得内容(基礎的なスペイン語終了⁶⁾)は一致しており、語学力に大きな差はなかった。

次に学修者同士の交流状況について述べる。A大学は学部の方針により全外国語科目がオンライン授業で実施されていた。そのため学修者らは入学当初から対面での交流がなかった。Zoomを利用したリアルタイム授業では個人情報への配慮から画面オフが保たれており、例年に比べ新たな人間関係が育まれにくい環境であったと推察される。一方B大学は本実践を行った段階で対面授業が再開されており、教室では同じ部活動に所属する学修者らの会話が見られた。しかしながら感染症対策が続く中、アクティブラーニングによって学修者の交流を積極的に促すなどコロナ禍以前の授業を展開することは難しい状況であった。また学修者が個々の事情に応じてオンラインへの切り替えを申し出ることも多く、決して落ち着いた学修環境ではなかった。このような状況から、両大学とも学修者同士の交流はコロナ以前に比べると希薄であったと捉えられる。

ここからはワークショップの流れについて述べる。まずzoomに登場したゲスト講師ら⁷⁾が、略歴や活動内容等を紹介し、「コンビ名の決め方」、「飛び出し(挨拶)」について説明した(資料1)。その後、担当者があらかじめ割り振っていたコンビに分かれ、ペア作業に移った⁸⁾。Zoom受講者がペア作業を行う場合は、ブレイクアウトルーム機能を利用し、ゲスト講師が各ルームを訪問してサポートした。対面参加者から質問が出た場合は、筆者を通じてスクリーン上のゲスト講師に呼びかけ、やりとりが行われた。約10分程度経過した段階で準備が整い、前半の発表を行った⁹⁾。後半ではゲスト講師がネタの披露しながら、オチの作り方を紹介した(資料2)。学修者は「似ている語リスト¹⁰⁾」を参考に、ペアワークを進めた。約20分経過したところで全コンビの作業が終了したことが確認され、全体でネタを披露した(資料3)。締めくくりとして

ゲスト講師から総評を受け、質問タイムに移った。最後に学修者はアンケート¹¹⁾に回答して授業は終了した。

対面授業（実践4）

調査時期は2021年度、対象者は私立B大学「スペイン語B（文法）」の8名であった。このクラスはスペイン語専攻とはいえ学修歴が1年未満であることから、本稿では実践1～3と同レベルと位置づけた。授業形態は対面ではあるが、実践2,3と同じく感染症対策に配慮し、アクティブラーニング等を控えており、学修者同士の交流はコロナ以前に比べると希薄であったと捉えられる。ワークショップの流れは、ゲスト講師と学修者が一堂に会した点をのぞき、実践1～3と同様であった。

3. 結果

ここではオンラインと対面授業で実施したアンケートの自由記述回答「学んだこと、気づいたこと、感想などを自由に書いてください」を分析しどのような相違があったかを確認する。アンケートはgoogle フォームを利用した。回答者数はオンライン43名、対面8名であった。

分析にはフリーソフトウェア KH Coder を用いて、筆者の恣意的・主観的な解釈となる可能性を回避することに配慮し、自由記述回答をテキスト型データに変換して質的な計量テキスト分析¹²⁾を行った。これらの操作手順は樋口（2014: 101-202）に詳しい。本分析では KH Coder なかでもアンケートの全体を可視化できる「共起ネットワーク¹³⁾」を利用した。

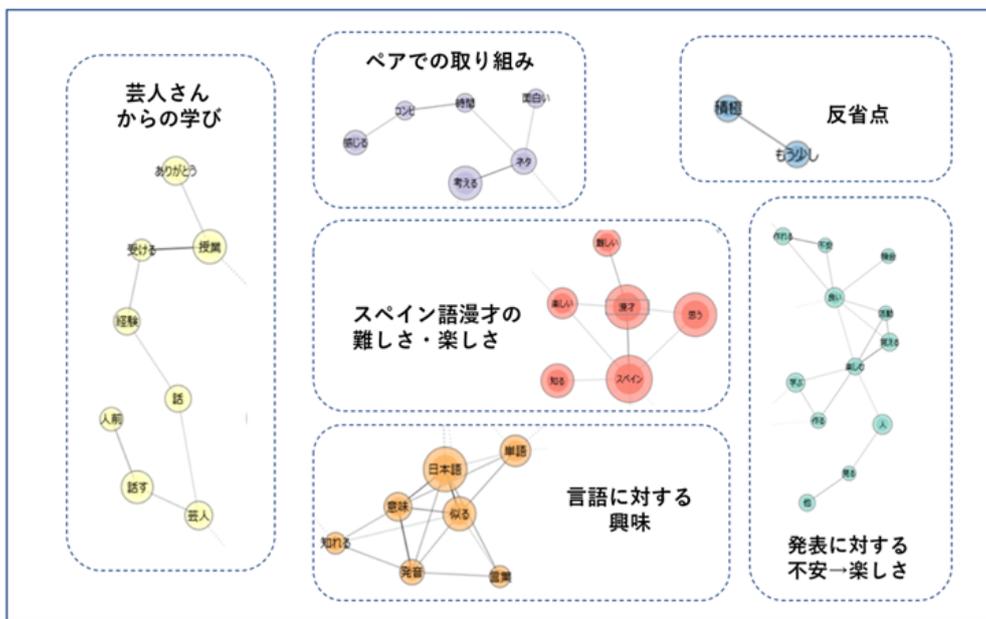


図1 オンライン授業の感想

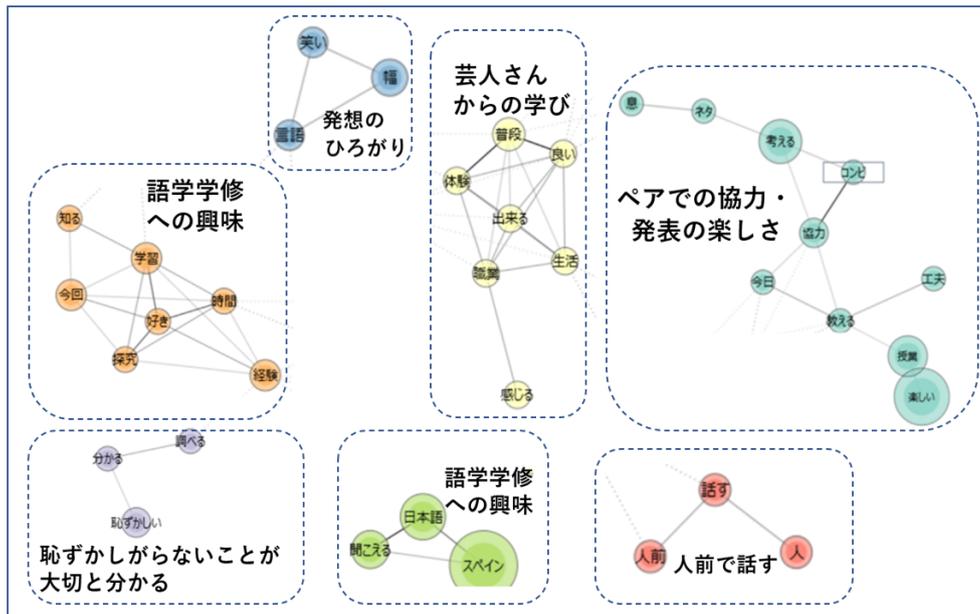


図2 対面授業の感想

図1はオンライン、図2は対面授業の感想である。共起ネットワークでは強く結びついた語同士が自動的にグループ化されるサブグラフ検出を行うことができる¹⁴⁾。サブグラフのタイトルは、筆者が素データで出現回数の多い語を確認し、サブグラフの特徴を表わしうるキーワードと判断したものを付した。たとえば、図1中央上部のサブグラフは「ネタ」「考える」「時間」「面白い」などのキーワードで構成されていることから、名称を「ペアでの取り組み」とした。

表2 「漫才づくり」によって習得が期待される力 (オンライン授業)

サブグラフ	人間関係形成力	言語能力	複合力・総合力	スペイン語力
ペアでの取り組み	○	○	○	
発表に対する不安→楽しさ		○	○	
芸人さんからの学び	○	○	○	
言語に対する興味		○		○
スペイン語漫才の難しさ・楽しさ				○

表3 「漫才づくり」によって習得が期待される力 (対面授業)

サブグラフ	人間関係形成力	言語能力	複合力・総合力	スペイン語力
ペアでの協力・発表の楽しさ	○	○	○	
人前で話すこと		○	○	
発想のひろがり			○	
恥ずかしがらないことが大切と分かる		○	○	
スペイン語漫才の難しさ・楽しさ				○
芸人さんからの学び	○	○	○	
語学学習への興味				○

表2, 3「漫才作りによって習得が期待される力」では、左側に共起ネットワーク (図1, 2) に現れたサブグラフの名称、上段は表1の知見「人間関係形成力」、「言語能力」、「複合力・総合力」

合力」に「スペイン語力」を加えた4項目が並ぶ。筆者がアンケート回答の素データを確認した上で、各サブグラフがどの能力育成に結びつくかを○印で示した。その結果、オンライン、対面授業ともに「人間関係形成力」、「言語能力」、「総合・複合力」、「スペイン語力」の育成につながる可能性が示唆される結果が得られた。

表4 オンライン・対面で異なる特徴

	オンライン	対面
スペイン語漫才の難しさ	○	△
不安	○	—
反省	○	—
芸人さんからの学び	◎	○

表4はオンラインと対面で異なる特徴を示したものである。表の左には筆者がアンケートを確認し、オンラインと対面で学修者のコメントに異なりが見られた点を項目として並べた。以下でこの結果を考察し、今後の課題を抽出したい。

まずオンラインでは対面に比べて「スペイン語漫才の難しさ」や「不安」を感じる学修者、また授業後に「反省」の気持ちを述べるコメントが多く見られた。今後の課題として、オンラインでは授業担当者が学修者により寄り添う姿勢を見せて声かけをするなど精神的なフォローを心がける、また事前課題を準備して緊張感をほぐすなどの配慮が必要だろう。

一方、ゲスト講師である「芸人さんからの学び」に着目すると、その価値をより大きなものと認識していたのはオンライン学修者であった。あくまで筆者の印象であるが、対面授業ではゲスト講師の存在感が常に近くに感じられることから、教室は終始賑やかで一体感のある雰囲気保たれた。他方、オンライン授業では和やかな雰囲気が保たれていたが、スクリーンのゲスト講師が発言する際は、教室は静まり学修者らは私語を慎んで集中するなどメリハリが感じられた。特に2021年の春学期は感染状況がまだ落ち着かず社会全体に緊張感があったことから、真剣な取り組みが実現しやすかったのかも知れない。

このオンラインと対面の相違は質問タイムに関する回答でも見られた。オンラインではゲスト講師のメッセージを人生の糧としてとらえたコメントが目立った。一方、対面授業では、真剣な質問を投げかけるには明るすぎる雰囲気だったのかも知れない。漫才づくりを非日常のイベントとして楽しむことはもちろん大切であるが、冒頭で述べたとおり本ワークショップは現代社会が若者に求めるスキルを修得する目的も兼ねている。これらを考慮に入れ、学修者の自己学修能力を高めるために授業者がフォローをする必要があるだろう。

4. おわりに

本実践の結果から、大学で初級スペイン語の習得に取り組む学修者にとって「漫才を取り入れた授業」はオンライン・対面授業ともに多少なりとも有効であり、特に「人間関係形成力」、「言語能力」、「総合力・複合力」、「スペイン語力」に寄与することが示された。一方、オンラインでは、精神的なフォローや事前準備が必要であることが明らかになった。また対面授業では、学生の自己学修能力を高めるために授業者の働きかけが必要であることが示唆された。

しかしながら今回の調査は短期間の取り組みに基づいているため、その結果は必ずしも一般化できるものではない。また対象が初級スペイン語の学生に限定されているため、他のレベルや言語における効果については考慮されていない。今後はより多くの学修者を対象にした長期

間の比較研究を継続し、対面、オンラインともにより効果的な教育方法を模索する必要がある。

【注】

1) 2016年5～7に東京理科大学において全9回(週1回)で開催。

2) 2019年6月21, 24, 26日に筑波大学英語プログラムスピーチ課題として全3回で開催。

3) 2021年の4～8月に徳山大学の地域ゼミにおいて全15回で開催。

4) 2020年12月22日に東京外国語大学国際日本学部の授業科目「メディア日本語：メディアとメッセージ」(日本語母語話者29名、日母語話者12名)で開催。

5) 安心・安全な学修環境を保つため、学習者には次の2点もあわせて提示した：①コロナ禍、またその他の事情によりオンライン参加が可能、②人前で表現することが心身に影響を及ぼす場合は見学し、別課題に取り組む。今回の実践において、見学希望者はなかった。

6) 各クラスとも発音から動詞の直説法現在形および過去形を用いた文章の組み立てに必要な知識までを終了している。

7) 吉本興業株式会社の漫オコンビ「フランポネ」マヌー島岡さん、「スペイン語大好き芸人」藤田ゆみさん、「漫オで覚える外国語」スーパーバイザーのたねやんさん(専門学校スペイン語講師)が講師となった。なお、吉本興業は2019年4月に同ワークショップをスタートさせている。

8) コンビは授業担当者の著者によって割り振られた。先行研究の知見に基づき、低コンテキストの学修者がペアとなるように配慮された。

9) 学修者のつくったコンビ名には、Salud taberna, Ajo to sal, Aquí llama, Bus Mate, Mar mar mori mori, Pica pica, Gran paella, Bien macho などがあつた。

10) リストには、“bien (良い/鼻炎)”, “quiero (欲しい/消えろ)”, “sos (熊/おっそ!)”, “vivir (生活する/ビビる)”, “manga (袖/漫画)”などがあつた。

11) 本研究の目的と内容、回答内容は論文として公表されること、個人名が第三者に特定されることがないこと、参加は自由意志であり拒否における不利益はないこと、調査票の回収をもって調査協力への同意を得たものとするを、学修者へ口頭また書面にて説明した。アンケートの質問内容：1「漫オワークショップを楽しむことができましたか」、2「スペイン語の新しい知識を得ることができましたか」、3「またこのような活動をやってみたいですか」、4「学んだこと、気付いたこと、感想などを自由に書いてください」。質問1～3の結果は橋本(2023)に詳しい。本稿では4のみ扱う。

12) 樋口(2014:15)の定義によると、「計量テキスト分析とは、計量的分析手法を用いてテキスト型データを整理または分析し、内容分析(content analysis)を行う方法である。計量テキスト分析の実践においては、コンピュータの適切な利用が望ましい」とされる。ソフトは次のURLからダウンロードできる：<https://kncoder.net/> またKH Coderでは、分析対象ファイルをテキスト形式(*.txt)で準備する必要がある。本実践では学修者から回収した素データ(google フォーム)をテキスト形式にするために「メモ帳」アプリを利用した。「メモ帳」とはWindowsであればどのバージョンにも付属している標準テキストエディタである。メモ帳では、文字情報のみのファイルの作成、編集、保存することができる。本実践では、素データがワード文書であったため、これをコピーして「メモ帳」に貼り付ける手順で、素データをテキスト形式に変換した。

13) アンケートの回答文を単語レベルに切り離し、それぞれの語同士の結びつきや出現回数を可視化したものである。図では出現回数を円の大きさ(Frequency)で表現しており、それらの円の結びつきの強度が線の太さで示されている。共起関係が強いほど、線は太く、濃くなる(Coefficient)。語群が線で結ばれているのは、学修者の文章中で接近した場所に現れていることを示している。

14) 各サブグラフを囲む枠(点線)は筆者が付け加えたものである。

【参考文献】

青砥弘幸(2015)「現代の若者の『笑い』に関する実態とその課題：大学生に対する調査を中心に」『笑い学研究』22, pp.47-61.

井藤元(2017)漫才づくりを通じた自己認識と他者理解：大学生を対象とした「笑育」の意義について『東京理科大学紀要・教養篇』49, pp.163-182.

松竹芸能事業開発室・井藤元(2018)『笑育－「笑い」で育む21世紀型能力－』毎日新聞版.

鈴木美加・島岡学(2022)「多国籍の学生と芸人・教師による漫才ワークショップ－「メディア」を通して－」東京外国語大学国際日本研究センター編『Journal for Japanese studies』12, pp.99-116.

関口美緒・ドリュウ, スペイン(2020)「中上級日本語学習者における創作活動－漫才の指導を通して－」筑波大学グローバルコミュニケーション教育センター『日本語教育論集』35, pp.45-53.

立部文崇・フランポネ・藤田ゆみ「留学生と日本人による漫才作成過程における多文化共生への気づき」『徳山大学総合研究所紀』44, pp.55-62.

橋本和美(2023)「スペイン語を取り入れた漫才ワークショップ－コロナ禍におけるオンライン学修の試み－」『NGO活動研究』(ナークジャーナル)21-1, pp.1-9

樋口耕一(2014)『社会調査のための計量テキスト分析』, ナカニシヤ出版.

【参考ウェブサイト】

KH Coder <https://kncoder.net/> 2023/3/31 アクセス

【資料】

資料1 コンビ名、飛び出し(挨拶)の例

〈コンビ名〉	
バンド名と同じようなもの。ネーミングに決まりはないが、覚えやすい名前、ヘンな前、おもしろい名前の方がよい。例えば「好きな食べ物と嫌いな食べ物を組み合わせる：トマトパエリア」、「おもしろい響きの言葉：ウンポコ、ポコアポコ、バカとアホ」、「おもしろい地名：クエルナバカ、チワワ、マルデアホ」など。	
〈とびだし〉	ボケ・ツッコミ : Hola.
	ボケ : Me llamo Yumi. Yo soy japonesa.
	ツッコミ : Me llamo Manu. Yo soy japonés.
	ボケ : Somos Vaca to Ajo.
	ボケ : Mucho gusto. 資料提供 吉本興業

資料2 ネタ作りの例

スペイン語のおもしろい言葉や間違えた言葉を使う例	
<ul style="list-style-type: none"> ・ Vaca バカ(牛)と ajo アホ(にんにく) ・ No sé (知らない) が野瀬さんに聞こえる など 	
ネタの例	ボケ : あれ、佐藤さんまだ来ないね。
	ツッコミ : 佐藤さんならあと5分で来るって。もうちょっと待って。
	ボケ : Mucho tomate? トマトがたくさんあるの?
	ツッコミ : Mucho tomate じゃなくてももうちょっと待ってと言ったの! もういいよ。
	両方 : どうもありがとうございました! 資料提供 吉本興業

資料3

学生の漫才（抜粋）

オンライン

AB : Hola～（拍手しながら登場）
 A : Me llamo A. Soy japonesa. Me gusta Judo.
 B : Me llamo B. Soy japonés. Me gusta Kendo.
 A : Somos “Bien Macho”.
 AB : せーの、Mucho gusto.（おじぎ）
 A : おまえ、好き嫌いある？
 B : おれ？おれ、アボカド、ダメやねんな～
 A : え？Abogado Dame!? 弁護士が欲しいって！
 おまえなんか悪いことでもしたん？ いいところ紹介するで。
 B : ちゃうちゃう、スペイン語の Abogado と Dame じゃなくて、
 くだものアボカドが苦手ってこと！ ¡Ya basta!（もうええわ！）
 AB : ¡Muchas gracias!

対面

CD : Hola～
 C : Yo soy Choji. Me gusta el béisbol.
 D : Hola, soy Hiroshi. Me gusta el fútbol.
 C : Somos “Choshi” .
 D : Mucho gusto.
 C : ひろし、何つくってるの？おいしそうだね。
 D : Hola Choji. Estoy preparando el gazpacho.
 C : ちょっと味見していい？
 D : ¡Dame Ajo!
 C : なんでそんなこと言うん？ひどいわ。
 D : ちゃうちゃう、Dame ajo て、にんにくちょうだいて意味やねん。
 C : そういうことか。もうええわ。
 CD : ¡Muchas gracias!

資料4 相互評価用ルーブリック

ルーブリック①：各コンビ発表時の他者評価

評価項目	3点	2点	1点
A 発音	ゆっくり大きな声で、 聞き取りやすい。	聞き取りやすい。	聞き取ることができる。
B 関わり	とても 息が合っていた。	息が合っていた。	取り組み方を工夫すればさらに良くなりそうだ。
C 漫才	大変 よく考えられた内容で、 楽しみながら知識が得られる。	よく考えられた内容で、 楽しみながら知識が得られる。	基本的な内容を満たしている。

ルーブリック②：学修後の自己評価

評価項目	3点	2点	1点
A 発音	ゆっくり大きな声で、 聞き取りやすいように発音できた。	相手が聞き取りやすいように 発音した。	発音した。
B 関わり	活発に 意見を出し合った。	意見を出し合って取り組んだ。	課題に取り組んだ。
C 漫才	大変 おもしろい内容の漫才ができた。 とても 楽しむことができた。	おもしろい内容の漫才ができた。 楽しむことができた。	漫才をすることができた。

資料5

学修者のアンケート原文（抜粋）

オンライン

〈芸人さんからの学び〉

「マヌーさんと藤田さんの話が面白くてすごく楽しい授業だった」、「発表は苦手ですが、発表後に吉本の方々が褒めてくださり嬉しかったです」、「実際に海外での話や、芸人になった経緯を知って、こんな考え方があるのかとか面白くてワクワクしました」、「いろいろな話をきけて良い経験になったと思います。ありがとうございました」など。

〈ペアでの取り組み〉

「スペイン語と日本語をリンクさせるだけで面白いモノを作ることができた」、「スペイン語漫才の授業を受けて、友達とのコミュニケーションのとり方や話し方などを学び、漫才の内容も2人で考えて楽しかったです」など。

〈スペイン語漫才の難しさ・楽しさ〉

「ただ勉強するだけでスペイン語を覚えるのではなく楽しく覚えられた」、「今回の授業はスペイン語で漫才なので難しく考えていましたが、とても楽しく出来たのでとても嬉しかったです」「人前で漫才をすることがなかったのがボケを考えるのが難しかったです」など。

〈言語に対する興味〉

「スペイン語を勉強すると、他の似ている言語もすぐに習得しやすくなる」、「日本語と発音が同じの言葉を覚えることができた」、「今まで知らなかった単語の意味や、実際に日本語と間違えられやすいスペイン語などの知識がふえた」、「楽しみながらスペイン語の単語などを学ぶことができました！！みんなの作った漫才のレベルが高くてすごかったです！！」など。

〈反省点〉

「今回は緊張しすぎて周りがよく見えてなかった。もっと周りをよくみることで、得られることも多くなると思う」、「学習者自身ももっと積極的になってくるとスペイン語意外の学び、気づきにつながっていくと思う」など。

〈発表に対する不安→楽しさ〉

「今回スペイン語で漫才をやるときは最初はうまく行くのかどうか不安だったけど、いざやってみると講師の方の説明も非常に丁寧でネタやコンビ名を決める時間をとってくれたり先に手本を見せてくれたりしたので最初感じていたほどの不安は最終的には消えていた」、「やる前はすごい嫌だったスペイン語漫才だったが、やってみると思ってたよりも楽しく他言語の良さに気づいた」、「とても恥ずかしかったけれど、良い機会になりました」など。

対面

〈芸人さんからの学び〉

「堅苦しい感じではなくラフな感じで授業ができて楽しかった」、「芸人さんはやっぱり声も聞き取りやすいし、笑顔が多くて凄いなと思った」、「普段の生活では決して経験できないような職業を体験出来たことは良い思い出になった。どの職業でも表舞台に立つまでの努力はとても辛いものがあり、一流に成ればなるほどプレッシャーなどの不安要素がかかるのだと感じた。今回は短い時間だったがそれを経験できたと思うし、別なジャンル同士の好きな事と好きな事を組み合わせて学習することで更なる探究心が得られた」など。

〈ペアでの協力・発表の楽しさ〉

「協力してコンビ名を考えた。仲良くなれてよかった」、「普段から授業は満足しているのですが、今日みたいにみんなで協力しあうことで、お互いに教えあったりすることに繋がると思うので、とても良いと思います」、「相方がしっかりとネタを考えてくれたおかげで、楽しく面白くやらせてもらいました!」、「今日のように、幅広い目でスペイン語を学んでいきたい。普段体験できないような貴重な時間でした。楽しく漫才ができた」など。

〈語学学修への興味〉

「日本語に聞こえるスペイン語を積極的に使用して盛り上がった。楽しい授業だった」、「今回のように漫才などでスペイン語とかを知っていく勉強法がよい」、「日本語に聞こえるスペイン語の単語など、こんな風にゲームみたいなものを取り入れる授業は楽しい」、「日本語だと、またスペイン語だとそう聞こえるんだ!という新しい発見があった」など。

〈恥ずかしがらないことが大切だと分かる〉

「怖じけず飛び出しができました」、「恥じらいをなくすこと、ナチュラルな会話を目指した」、「恥ずかしがったらだめだということが分かった」、「恥ずかしさを捨てることも楽しかった」など。

〈発想のひろがり〉

「漫才を考えることを工夫した」、「スペイン語と日本語の似ている使い回しを知れて、考えの幅が広がった。分からない所や気になったところはどんどん深く調べるようにすることが大切」、「言葉の違いだけでなく、ジェスチャーなど文化的なことも感じられた」、「小さなことでもいいので、趣味や興味を繋げると、探究心が出て楽しくなると思う」、「自分からネットなどで調べ、いい経験になった」など。

〈人前で話す〉

「怖じけず飛び出しができました」、「もっと全力で発表できた」、「堅苦しい感じではなくラフな感じでできた。楽しかった」、「芸人さんはやっぱり声も聞き取りやすいし、笑顔が多くて凄いなと思った」、「みんなもノリノリで楽しかったです。人前で漫才したことで鍛えられたものがあった。今回のように楽しみながらしていくとても楽しかった」、「実際にアクティビティをするのがとても楽しかったです」、「笑いをとる難しさがわかった。漫才授業は楽しかった」、「大勢(見知らぬ人)の前で話すテンポ感、反応を見ながら臨機応変に対応していくなど、相手を第一に考えることが身についたと思う」など。